

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター

所 管 課 (室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	野生きのこ優良品種選抜	野生きのこの菌株を採取し、それらの交配・選抜等により、優良な子実体を形成する優良株を作出する。	ムキタケ54株、ブナハリタケ23株の野生株を収集し、原木栽培により優良な系統を選抜した。また、従来の栽培方法の改善と菌床による栽培の可能性についても検討を加えた。	15	19	B	ムキタケ、ブナハリタケについては原木栽培用の優良系統の選抜ができた。また、浸水棚差し法により栽培方法の改善が図られた。	低カロリー食品の代表格である食用キノコの生育条件や栽培法が明らかになったことは、健康維持のためのレシピが増える可能性を感じさせる。調理法を添付した販売方法などを工夫することで、販路を広げられる可能性が生まれた。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	ナラ類の集団枯損に関する防除技術の開発	ナラ類集団枯損を抑制しナラ類資源を保護する。	カシナガキウムシ駆除法として天幕くん蒸法と玉切り法を開発した。	15	19	B	ナラ枯れの動態を明らかにするとともに、駆除方法として開発した被害木を伐採して2週間天幕くん蒸する方法と短く玉切りする方法を活用することにより、ナラ枯れ被害の抑制に寄与される。	森林保全のための技術開発は大切な課題であり、評価は適当である。
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県土の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	海岸マツ林の施肥体系と塩分捕捉効果	海岸防災林での造成から更新に至るまでの適正密度管理の解明 海岸マツ林の防災効果を測定するための指標としての塩分捕捉量の把握	海岸マツ林に試験区を設定し、成立本数別調査を実施するとともに、塩分捕捉量の測定を行った。	15	19	C	当初目的としていた施肥体系の確立には至らなかったが、海岸マツ林の塩分捕捉効果を示すデータが得られたことから、海岸マツ林の公益的機能を示す資料等への活用が期待できる。	相手が自然ということもあり、データ数が少ないとなかなか明確な一定傾向を得るのは難しいと思われる。
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県土の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	木本類による法面緑化	法面緑化に有望な木本類の選抜と草本類との種子配合比や適正な施工時期の把握 林道の安全通行の確保と管理費縮減を図る木炭による植生抑制手法を開発する。	林道法面で、木本類種子配合比や時期を変えて施工し、発芽率や成長過程を比較調査した。 炭材吹き付けの混入割合、資材、厚さ等植生抑制試験の効果を検討した。	15	19	C	木本類と草本類の種子配合比や適正な施工時期の把握には至らなかったが、法面緑化に有望な木本類を見いだされた。また、炭材吹き付けによる植生抑制効果が明らかとなった。	緑化事業に反映させるためには、現場での発芽不良の原因を明らかにし、良好な発芽が得られる条件についても検討する必要があると考えられる。
5	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	野生きのこ人工栽培技術の確立	サクツバタケ、ツチグリ等菌内に自生し、食用とされ、特産品化の要望の高い野生きのこ類について、その生態を明らかにするとともに人工栽培法を検討し、技術の確立を図る。	1食用野生きのこの採取と菌糸の培養 2食用野生きのこの生理生態調査 3適性培地組成の把握と栽培方法の検討 をサクツバタケ、ツチグリ、ムラサキシメジを対象に実施した。	15	19	B	ムラサキシメジ、サクツバタケについては実用的な栽培方法まで開発することができた。ツチグリについては、菌の分離培養が可能となった。	低カロリー食品の代表格である食用キノコの生育条件や栽培法が明らかになったことは、健康維持のためのレシピが増える可能性を感じさせる。調理法を添付した販売方法などを工夫することで、販路を広げられる可能性が生まれた。